

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 2 年 10 月 14 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 13名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	9名	

※事業所記入

事業所番号	3890300126
事業所名	グループホームしおり
(ユニット名)	空
記入者(管理者)	
氏名	網干 直美
自己評価作成日	令和 2 年 9 月 23 日

<p>【事業所理念】 ・共に生きる</p> <p>【ユニット目標】 ・寄り添う心「ありのまま」を支える笑顔</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>(取り組み) ①年に3回の避難訓練を実施。消防署との連携はとれているが、災害時や緊急時等、地域の協力を持てる体制作りには及んでいない為、運営推進会議や広報誌を活用し、避難訓練、救命救急講習等の実施や、災害時の事業所のあり方等の情報を発信した。 (結果) ①地域の災害時の事業所の在り方や避難場所としての役割を少しずつ周知していただいているが、合同訓練については時間的な問題で地域の方の参加は難しい。</p> <p>(取り組み) ②運営推進会議の参加について固定メンバーだけではなく、利用者の参加や幅広い参加者に協力を依頼し利用者、地域住民の方へ運営推進会議への参加の誘いを働きかけた。又、発言しやすい会議の雰囲気作りや環境、会議の組み立て方や内容を工夫した。 (結果) ②新たなメンバーの参加もあり、多くの視点や意見、情報交換が出来るようになってきた。1年間の行事、日常の様子のスライドショーは好評で今後も継続していきたい。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所は宇和島市街地が見下ろせる高台にあり、真向かいには宇和島城を眺めることができる。事業所の敷地は広く、自家菜園もあり利用者と一緒季節の野菜を収穫している。現在はコロナ禍のため、利用者の外出は自粛しており、利用者には何か楽しみは持てないか職員間でそうめん流しを企画し、手先の器用な男性利用者が竹を割って節を削るなど、立派なそうめん流し台を作る活躍をするなど、利用者と一緒に楽しんでいる。また、風船バレーのネットも手作りしたり、応援利用者にはポンポンを作ったりするなど、本格的に利用者と一緒にゲームを楽しむことができている。職員は真剣に利用者のことを考え、日常生活やレクリエーションに至るまで、工夫やアイデアを出したことをすぐ実現し、利用者の楽しみのある生活にもつなげている。また、事業所では利用者一人ひとりの自己決定を大切にし、職員は待つ姿勢で支援できるよう取り組んでおり、利用者のできることを増やしたり継続したりできるように努めている。地域にも積極的に関わっており、保育園や小学校との交流も盛んに行われているほか、地域に対して認知症カフェ(笑みちゃんカフェ)を実施し、地域のケア拠点としての機能も発揮している。運営推進会議のメンバーから事業所の評価は高く、家族からは何より利用者が伸び伸び自分らしく穏やかに過ごしていると感謝の声も多く聞かれる。</p>
---	---	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日頃のコミュニケーションや会話を通して、思いや希望を聞くように努めている。又、得た情報は職員間で共有している。	◎	/	◎	日常会話の中で、職員は利用者一人ひとりと丁寧に会話をしながら、思いや希望を聞き取っている。訪問調査日にも、利用者が中庭に目をやり、「コスモスがきれい。あそこで写真撮りたいけど出ていい」という利用者に職員は寄り添い、楽しそうに写真を確認する様子を見ることができた。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人の生活歴やこれ迄の歴史にも目を向け、小さな表情の変化も見落とさないよう努めている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	面会に来られた際に、コミュニケーションを図り、本人の思いについて伝える事はあっても話し合い迄には至っていない。(新型コロナウイルス感染予防対策により面会禁止が続いた為ご家族と話し合う機会がもてなかった)	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	◎	入所時、フェースシートを作成し職員間で共有し確認している。センター方式、24hシート等に記録するように努めている。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	申し送り等で情報を共有し、個人の思い込みや決めつけにならないよう、職員間で確認しあっている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所時のアセスメントで家族や関係者から情報収集を行い、入所後は、面会時に情報交換をするように努めている。	/	/	○	職員はセンター方式のアセスメントシートを活用して、家族や関係者から情報収集を行い、記録し共有している。また、「私が終わること・わからないことシート」を活用して具体的に抽出することで、職員は利用者の性格や好み、言葉づかいなどを把握することができている。利用者の得意な習字や料理、好きな植木など、これまでの生活歴なども職員は把握している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	◎	出来ないと感じず「これがこうなら、あれはできるのでは？」と可能性を見つけ取り組んでおり記録し情報共有している。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	ユニット会、モニタリング、アセスメントシート、24hシート等を活用。記録に残し共有している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	◎	ユニット会、モニタリング、アセスメントシート、24hシート等を活用記録に残し共有している。又、身体面では看護師やかかりつけ医と連携を取っている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	◎	24hシートに記録を残し、変化があれば申し送り等で情報共有している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	24hシートに記録を残し、変化があれば申し送り等で情報共有している。	/	/	○	職員は、「24時間支援記録」を細かく記録することで、利用者一人ひとりの情報を共有している。ユニット会では職員間で話し合いたい項目を明確にし、利用者本位の支援になるよう検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	ユニット会、モニタリング等を通して支援方法を検討している。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ユニット会、モニタリングを行い、日々の支援からでてくる課題について明らかにするよう努めている。	/	/	/	

愛媛県グループホームしおり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	◎	本人からしたい事を聞き取ったり、日常生活の様子等から汲みとれる思いを職員間で話しあっている。	/	/	/	職員は、利用者一人ひとりの要望や意見を聞き、「やりがいと自信を持ちたい」など、利用者の発した思いをそのまま記録に残している。また、職員は家族からも要望を聞き取り、職員の気づきなどを反映して、介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人の意向を踏まえ、家族にも確認しただけ取り入れている。ユニット会で話しあい、職員からもアイデアが出されている。	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	本人の希望を聞いたり表情等から読み取るようにしている。選択を促している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族協力のもと、誘因や美容院に行く事はできているが、地域を巻きこむには至っていない。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	ケアプランは毎日見えるよう、個別ファイルに貼付しており、プランの内容の把握は出来ている。	/	/	/	ファイルの内側に介護計画書を貼付し、サービス内容をどの職員が見ても分かりやすいように工夫している。「24時間支援記録」には、利用者の起床時から日中の様子、就寝までを記録され、より良いケアの実践につなげている。利用者の感情や活動の様子、しぐさなども、分かりやすく記録に残されている。カンファレンスなどでは職員から意見が出されているが、記録に残せていないため、会議録など記録に残すことを期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	24hシートは毎日チェックしている。毎月行っているユニット会にて結果、経過について確認している。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	24hシートに1日の様子や特変時の記録はできているが、支援した具体的な内容が乏しいと感じている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	24hシート、申し送りノート等に記録し共有しているが、工夫、アイデアは出ていない。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	◎	毎月のモニタリングで3ヶ月毎の評価で見直しは出来ている。	/	/	/	毎月、サービスの実施状況等のモニタリングを実施し、モニタリング表には1か月目、2か月目、3か月目と作成して、3か月ごとに評価をして、必要に応じて介護計画の見直しをしている。また、利用者の変化が生じた場合には、その都度職員間で話し合って見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	日常のケアの中で確認し、ユニット会で話し合いが出来ている。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	体調等に大きな変化があれば、プランの期間内であっても、見直し、作成を行っている。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	定期的なユニット会を開催。必要に応じて緊急カンファレンスを行っている。	/	/	/	毎月実施するユニット会で話し合い、検討した項目や内容、結論、残された課題などを議事録として残している。参加できなかった職員は議事録を確認し、サインをして共有できるようにしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	◎	発言は否定せず、前向きに検討するようにしている。できるだけ皆に意見を聞くように心がけている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	◎	年度始めに1年間の開催日時を決めている。緊急カンファレンスは出勤者の負担にならない日時で調整している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会議録を作成しており、参加できなかった職員には口頭で伝えている。又、会議録に目を通したら押印するようになっている。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	日誌、連絡ノート、申し送りで共有している。	/	/	/	申し送りははじめ、日誌や連絡ノートを活用し、職員間で情報を共有している。特に重要な事柄はマーカーを引くなど、他の職員が見ても分かりやすいように工夫されている。職員の記録の確認後には、サインを徹底している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	日誌、連絡ノート、申し送りで共有している。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	コミュニケーションを取りながら、思いを把握するように努めているが、毎日が同じパターンになりがちで積極的には行っていない。	/	/	/	事業所では飲み物のメニュー表を作成し、職員はその都度利用者に飲みたい物を提供できるようにしている。日常生活の中で、常に職員は利用者が自己決定できるよう、待つ姿勢を心がけながら支援している。全ての職員の言葉かけなどは丁寧で優しく、利用者の意欲を引き出せるような接し方ができている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	◎	飲み物や洋服など希望の物を聞いたり選択して頂く機会を作っている。入浴の時間等、希望の時間やタイミングを本人と相談しながら支援を行っている。	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	自己決定が難しい方に対しての働きかけが難しい。答えやすい質問、その方に通じやすい表現を心掛け、筆談やジェスチャーを交えて伝えている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	◎	一人ひとりのペース、生活習慣を大切に、本人の気持ちを確かめながらケアを進めるように努めている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	利用者に接する時は、明るく笑顔で気持ちの良い態度を心がけている。コミュニケーションや声掛けを意識し傾聴。その方にあっただけの楽しみを見い出せるよう提案している。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	日頃の関わりの中で、表現や言動をよく観察し状態の把握に努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	研修や報告会の参加で学んでいる。又、指導して下さる先輩もおり、日頃から十分配慮し意識して行動するように努めている。	/	◎	◎	定期的にプライバシーの尊厳等の勉強会を開催し、職員の意識向上に努めている。職員は利用者の「尊厳」を大切に、支援していることを窺うことができた。トイレや着替えなど、利用者のプライバシーを要する場面では、職員は小声で声かけをするなど、利用者に配慮した対応ができるよう心がけている。利用者が居室に居ても居なくても、職員はノックや声かけを基本として支援している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	特に大きなプライバシーに係る部分、トイレや入浴、行為について、細心の注意を払っているが、相手によってはストレートな表現でないと伝わりにくい事がありできていない事もある。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	◎	事前に声掛けをし、ケアにあたっている。カーテンや身体を隠す為にタオルを使用している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室する時は、居室ノックをしたり外から声をかけてから入室している。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	個人情報、保護について理解している。職場内や職員のやりとり等個人情報は第三者には漏らさないとしている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けをもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	◎	日々の生活の中で、得意分野を積極的に行ってもらい、職員が助けをもらったり教わる事も多い。お互いに助け合い共感し支え合っている。	/	/	/	共用空間に置かれているイスを除けて通りやすいようにしたり、下膳を手伝ったりするなど、利用者同士が支え合う場面が多く見られる。日常生活の中で、利用者同士の意見の食い違いも見られることもあるが、管理者は利用者の喜怒哀楽の表出も大切なことと考えている。利用者同士のトラブルが起こった場合には、職員が間に入り、きちんとフォローをしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	理念の「共に生きる」を元に大切さの理解は出来ている。助けたり助けられたり、利用者の笑顔を見る事で支え合っていく事の大切さと重要性を感じている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらい場面をつくる等)。	○	利用者同士の関係性の把握に努めている。全体の雰囲気を見ながら座席の変更をしている。下膳できない利用者さんの食器を片付けて下さったり、移動時、他者の車椅子を押して差し上げたり、歩行器を持ってきて下さる場面も見られる。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	それぞれの利用者別に別の場所で話を聞くなどして他者への影響がないように支援している。トラブルが起きそうな場面では、事前に職員が間に入り回避している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	本人、ご家族からお話をお聞きしているが、全てではない。キーパーソン、近親者については把握できている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人、ご家族からお話をお聞きしているが、全てではない。これ迄の生活歴や家族から得た情報は共有している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	馴染みの美容院、理髪店、通院等これ迄の繋がりを継続している人もいるが、重度の方は難しくなっており、人により差がある。年に2回、本人から年賀状や暑中見舞いが出せるように支援している。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	昼間は鍵をかけず、気軽に来れるようにしている。来所時は、明るい挨拶を心掛け、居室やホールでゆっくり過ごして頂けるよう環境を整えている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	気候は考慮して外出、散歩は行っているが、一人ひとりの希望にそって取り組むのは難しく、時間帯、行き先等が職員都合になる事もある。	○	○	○	日頃から、家族の協力も得ながら、ドライブなど外出できるように支援している。現在はコロナ禍のため外出を控えているが、日常的に広い庭先に出て散歩したり、外気浴をしたりしている。訪問調査日にも、重度な利用者を含む数名の利用者に職員が「帽子はどれにする」などと声をかけ、利用者自身で選んだもらった帽子を被り、笑顔で外に出ていく利用者の様子を見ることができた。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	ご家族、ホーム職員で外出支援を行っているが、地域の人やボランティアの協力は無い。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	体調や気候等を考慮しながら、離床する時間をもてるように支援している。	/	/	/	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	ご家族に協力してもらい自宅やお店に外出や外泊をして頂ける時はあるが個人差はある。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	実践者研修で学んだ事を日々のケアに繋げるようにしている。利用者の状態の小さな変化も見逃さないよう、その日起きた事を職員間で話しあい解決するよう努めている。	/	/	/	日常生活の中で、職員は利用者を見守り、待つ姿勢を重視した支援をしている。利用者のできること、できそうなことは、可能な限り自分でしてもらうよう職員は声かけしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	日常生活の中で見守りと声掛けを行いながら利用者の動きを抑制しないよう心掛けており、出来る限りトイレでの排泄、福祉用具の使用、散歩や体操、食事前の口腔体操にも取り組んでおり、機能の維持に取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行動できるようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	見守りと声掛けを行いながら、できるだけ本人にして頂けるように見守る姿勢と関わりをもっている。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	本人とのコミュニケーション、家族との会話を通して、希望や楽しみを把握している。日々の生活から得意分野も把握し、一人ひとりの生活を見守っている。	/	/	/	女性利用者は掃除をしたり、洗濯物を畳んだりするなど、積極的に役割を持ってしている。調理好きな利用者は、男性職員が調理を担当する時には特に気づかい、積極的に手伝う姿が見られる。男性利用者ならではの、そうめん流し台づくりに活躍するなどの出番もあるなど、職員は利用者一人ひとりの状態等にも合わせながら、得意分野で出番や役割が発揮できるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	一人ひとりのその日の状態に合わせて、笑顔を引き出せるよう得意な事を活かせる場で積極的に声掛けしているができていない人もいる。	◎	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域行事の参加は積極的にやっているが、同じ利用者には偏りがちである。	/	/	/	

愛媛県グループホームしおり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	好みの洋服選びやお化粧、スカーフをしたりとその人なりのお洒落を把握している。又、散髪や毛染めなどホームで出来ること本人と相談して行っている。				利用者の服装や髪型などに乱れがある場合は、職員は自尊心を傷つけないようさり気なくカバーしている。自分に合った整容や化粧品をして、楽しむ利用者もいる。事業所には散髪ボランティアの来訪もあり、散髪をしている利用者もいる。重度の有無にかかわらず利用者の希望を聞き、無理強いすることなく自己決定を尊重した支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	個々に洋服を選んでもらったり、ご自身で整容されている方もおられる。又、月に一度来て頂いているボランティア散髪さんには、好みの髪形や長さなど自身で伝えるなどしており、希望通りにして頂いている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	最初から決めつけず、問かけの工夫に二択にしたりゆくり考えて頂けるよう、せかさないうえを付けている。又、表情の変化を観察し気持ちに寄り添うように心がけている				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	好みやこだわりを尊重し、行事や外出時はその場面にに応じておしゃれを楽しんで頂いている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	自尊心を傷つけないよう、小声での誘導を心掛け、周囲に気づかれないよう対処できている。	◎	◎	◎	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	◎	家族の協力を得ながら出来ている。又、希望があれば送迎し馴染みのお店へ行っている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	重度になっても場面や状況に合わせて、髪型・服装の配慮をしている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	全員理解できている。個々に応じて調理方法や形態を変え、美味しく食べられるように支援している。				代表者が管理栄養士の資格を持っており、利用者の状況に合わせて栄養面を考え、旬の食材や利用者の好みを取り入れた献立を作成している。台拭きや調理の手伝いなど、利用者のできることを行っている。鮮魚の移動販売車が売りに来た時には、利用者も一緒に品定めをしたり、事業所内の菜園で採れた野菜や家族からの差し入れの食材を使用したりするなど、代表者と職員と一緒に話し合い調理方法を工夫しながら、旬の食材を使ったメニューを利用者に提供している。訪問調査日には、旬の食材を取り入れたさつま汁やオクラの和え物、おやつにふかしまんじゅうが出されて、おいしく頂くことができた。コロナ禍で食事風景は見学することはできなかったが、利用者は自分に合った食器を使用し、職員と一緒に食卓を囲み、楽しく食事をすることができている。重度であつてもりビングに出て職員が気配り、声かけしながら食事介助をしている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにしている。	○	献立は基本栄養士が立てているが、行事や誕生会など利用者の希望を聞き変更することもある。出来ることは一緒に行っているが、時間に余裕がないときもある。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	手伝って頂く事で、自信・達成感に繋がっているが、重度によりできない方もいる。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	苦手なもの、アレルギー等の情報収集はしており、目につきやすい所に(冷蔵庫)貼っている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味のものを取り入れている。	◎	アレルギーのある方は、食材やメニューを変更している。又、地域の料理・旬の野菜や地元の魚を取り入れ、季節や行事によってメニューを工夫している。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いどりや器の工夫等)	○	彩りを考えた盛り付けになるよう努めている。又、ミキサー食でも何かわかるよう説明をし、食を楽しんで頂けるよう心掛けている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使いやすいもの、使いやすいものを使用している。	○	軽い器、返しのついた器、見えやすい食器の使用を利用者にに応じて対応している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	利用者と一緒に食事をし見守っている。迷う場面や進まない時は、手前に置き換え声掛けをしたり、食べこぼしにはティッシュを差し出すなどさりげないサポートを心掛けている。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音や匂いを感じてもらえるよう、早めにはりビングに出てもらい、雰囲気作りを心掛けている。	○	重度な状態にあつても、調理の音や匂いを感じてもらえるよう、早めにはりビングに出てもらい、雰囲気作りを心掛けている。		◎	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	病気に合わせた除去食・主食の減量を行っている。水分チェック表の活用等、それぞれが把握して対応している。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事量は毎食記録している。水分補給は時間を決めてこまめに行っており、希望時にも提供できるよう常備している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士が立てた献立に沿って調理しているが、必要に応じて出勤者で相談・工夫が出来ている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	器具は、ハイターで定期的に消毒している。又、食材の賞味期限には十分注意し、近くなったものから使用している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	歯科医を招いての講習会も行っており、研修やミーティングで学び、全員理解できている。	/	/	/	2週間に1回歯科医の往診(口腔ケア)があり、利用者の口腔内の状況確認を記録し、把握できるよう努めている。利用者一人ひとりに合った口腔ケアを行い、必要に応じて職員は利用者の口腔内の状態を確認している。事業所では口腔体操に力を入れており、食事中にムセ込みのあった利用者が改善された事例もあり、職員は口腔体操の必要性を実感している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	訪問歯科の往診(口腔ケア)を受けている。利用者に関しては、日誌・個人ファイルに記録しており、把握している。その他でも、口腔の事で不具合がある等早期発見に努めている。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	◎	訪問歯科の医師から指導して頂いており、毎食後、ケアを行っている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	◎	利用者個々に応じて、管理や洗浄等を支援している。自分でできない方は、職員と一緒にやっている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	利用者個々に応じて、利用者本人にできる範囲で行ってもらい、必要に応じて、口腔ケアの介助を行っている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	異常等の早期発見に努め、家族に相談しながら適切に受診に繋げている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	研修で学んだり(メーカーによる勉強会)ユニット会時の意見交換・理解に努めている。オムツの使用に関しては必要最低限の使用を心掛けている。	/	/	/	職員は、利用者がトイレで排泄できることを基本として支援している。利用者の状態に合わせて、時間等でトイレ誘導をしている。毎月のユニット会では、利用者にあった適切な排泄用具が使用できるよう、検討している。おむつメーカーの研修でパッドの当て方などを職員が勉強したことを実践し、尿漏れが改善された事例もある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	健康チェック表、24Hシートの活用、申し送り等で個々の把握に努めているが、自立している方は難しい。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	ユニット会等で話し合い、必要性を検討している。個々に応じた形状容量等で使い分けしている。出来るだけトイレでの排泄ができるよう支援している。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄状況を確認しながら、食事・水分・運動・薬の副作用等、影響している点はないか考えながら支援している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	一人一人の排泄パターンを把握し、兆候が見られたら声掛け、誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	吸収量・時間帯等を考慮して、オムツの種類を検討し、提案をしている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	本人の希望や使用目的に応じた使い分けができています。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	乳製品の提供、こまめな水分補給・運動の促し等を行っているが、薬に頼っている部分がある。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	利用者個々に応じて、生活の習慣やリズム、希望等を考慮し支援しているが、職員側の都合になってしまうことがある。	◎	/	○	事業所では入浴日や曜日の設定はなく、毎日入浴をしている利用者もいる。利用者の希望を尊重して、職員は気持ちよく入浴できるよう支援している。入浴が苦手の利用者には、時間帯を変えて声かけをしたり、スムーズに入浴してもらった時の情報などを共有したりしている。自分用のお気に入りのシャンプーやリンスを用意して使用している利用者も数名いる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	◎	一人ずつ入浴できている。支援の必要の有無や状況に応じ、介入しないように支援している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	本人ができることはして頂いている。サポートが必要な所はさりげない声掛けをしながら支援している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	体調や本人の気持ちを尊重し、時間を変えて再度声掛けしたり、拒まれた時の状況やスムーズに入浴できた時の状況を情報共有し、声掛け等の工夫を行っている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	入浴前のバイタルチェックを行い、その時の体調や状態を見て入浴を決めている。入浴後は、水分補給し、様子を見ている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	夜勤帯の記録や申し送り等で共有し、日々のケアから睡眠パターンを把握している。	/	/	/	職員は利用者の日中の活動量を増やしたり、特に日中に太陽の日差しを浴びることを大切にしたりしながら、利用者が安眠できるように支援している。必要に応じて、職員は医師と相談しながら内服薬を処方してもらうこともあるが、眠剤ではなく利用者の一日のリズムを整える薬剤を飲むことにより効果を得ることも多い。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昼夜逆転しないよう、日中の活動を維持できるよう努めている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中の活動や過ごし方と並行して、医師との連携を取りながら必要に応じて内服薬などを検討している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	いつでも居室で休むことができる。その日の体調や様子、前夜の睡眠具合も考慮し臨機応変に対応している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	携帯電話を自由に使っている方もおられる。希望に合わせるよう努めているが、電話は時間帯や内容によりできない時もある。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	要望があれば電話の取次ぎはしている。一人一人のできる範囲で年2回(年賀状・暑中見舞い等)季節のはがきを出せるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	ユニットごとに電話が設置されており、取り次いでいる。要望があればご家族に先に確認したうえでかけている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	郵便物などは本人に渡し代読したり、一緒に確認している。返事を書く場合は必要に応じて対応している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	電話をかける場合は、先に職員が経緯や内容を説明してから取り次いでいる。事前に協力を依頼している。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大きさを理解している。	○	使用する機会は少ないが、お金を持っていることの安心感等、利用者個々に応じて理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	要望があれば一緒に出掛け、買い物することもありますが日常的ではない。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	移動販売の方には理解して頂いている。店への協力は特別申し出ていない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	お金を持つ事で安心感につながる利用者もおられるが、日常的にそのお金を使う場面が少ない。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	△	入所時に話し合っているが、あまり使う機会を持っていない。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしておき、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	入所時に話し合い、決めている。現金出納帳に記載し、毎月使用した分のコピーを送り確認している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	本人や家族等と相談しながら、そのニーズに応えられるよう柔軟に対応している。	◎	◎	家族の要望により職員は利用者の不足する日用品を買いに行くなど、可能な限りその時々々のニーズに柔軟に対応している。利用者から希望が出され、職員と一緒に家に郵便物を取りに行ったりすることもある。	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	常に開放している。掃除や環境整備をし、ソファや椅子・テーブルなどを置き、明るい雰囲気作りを心掛けている。	◎	◎	◎	事業所の敷地は広く、玄関周辺は緑の芝生や菜園、木々に囲まれている。玄関ホールは吹き抜けで広く、テーブルセットやソファが置かれ、訪問者がゆっくりとくつろぐことのできる空間となっている。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	玄関やホールでは、季節の花を飾ったり、メダカを飾ったり季節の行事の装飾品を置いており、くつろげるスペースを確認し、家庭的な環境を整えている。	◎	◎	◎	玄関ホールには生花や観葉植物が置かれ、廊下には利用者が発案した「わたしたちの宇和島」と題した、ちぎり絵が掲示されている。リビングは少し手狭になっていることも、家庭的な雰囲気を感じさせてくれている。リビングからは宇和島城や市内の絶景が見渡せ、利用者は庭先の深緑を眺めながら、静かに落ち着いた生活を送ることができている。また、廊下には空気清浄器が置かれ、掃除も行き届き、清潔で居心地の良い空間づくりがされている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	掃除、環境整備、空調、匂い等、日々気を付けている。トイレを設置している部屋には消臭剤を使用している					○
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	◎	掲示物等で季節感を感じられるようにしている。又、キッチンカウンターの為、食事前には調理の音や匂いがする					○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	リビング、廊下などソファを設置し、気の合う利用者同士談笑できるようにしている。又、馴染みの場づくりや独りで過ごせる環境も整っている					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	トイレや浴室にはカーテンやのれんをつけており、直接見えないようにしている					
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	馴染みの家具等、使い慣れたものを持って来て頂いている。写真の掲示や家具等の配置は相談しながら決めている。	◎			居室には、使い慣れたものなどを持ち込むことができ、サイドボードやサイドテーブル、スタンドを配置するなど、個性的でおしゃれ好きを窺える部屋も多い。利用者個人を尊重した、居心地の良い空間となっている。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	各居室には表札を設置している。又、トイレや浴室など掲示の工夫をし、わかりやすく見えるよう配慮している。				○	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	利用者個々に応じて十分に検討し、センサーの使用から、不安や混乱、失敗等に繋がる場合は環境調整している。					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞や広報などが手がとれる所に置いてあり、危険があると思うものは希望時にお出ししている。					
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	玄関チャイムは設置している。日中は鍵をかけておらず自由に入出入りできる環境を整えている。階段の出入り口には転倒防止の為に付けている。	◎	◎	◎	職員全員が鍵をかけることの弊害を理解しており、事業所内には施錠することなく、利用者は自由に出入りすることができる。玄関にはセンサーを付けており、利用者等の出入りはチャイムで確認することもできる。デッキを通過して事業所に併設されている別のグループホームへ自由に行き来する利用者もいる。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	◎	家族と意見交換しながらホームでの生活について伝えている。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	玄関チャイムを設置している。利用者の自由な行動を妨げず、見守りや他ユニットと協力して声掛けをしている。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4)健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	◎	情報収集した内容を確認している。24hシート、日誌を活用し、看護記録や通院状況なども把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	24hシートや日誌に記録。申し送りを行っている。看護記録に記録している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	主治医や事業所の看護師などへの相談をよくしながら、利用者個々に応じている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人家族に相談しながら医療機関や医師に受診できるよう支援している。		◎		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人や家族の意向や希望をよく聞き、納得できる医療機関との連携を図っている。何かあれば、その都度家族に相談し、決定しながら支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	通院の同行や付き添い、結果報告などその都度行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入所の際は情報提供を行い、本人の状態を伝えている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	管理者、看護職員が主に病院関係者と連絡を取り合いながら、随時家族とも連携して行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	定期的な受診を通して、関係作りをしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	日頃から事業所の看護職によく相談できている。かかりつけ医への相談も随時行っている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	連絡は24hいつでもとれる体制になっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日バイタルチェックを行い、変化や異常がないか観察している。何かあればすぐに相談できるように努めている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	処方箋や薬の説明、受診記録等から確認している。又、服薬状況管理表を作成しており、いつでも確認できるようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	個別の薬袋、日付を入れる等工夫している。Wチェックし、名前を呼んで手渡し、飲み込むまで見守る。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日々の状態や様子を観察しながら、変化や異常があれば看護職やかかりつけ医に報告している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	本人の状態や変化等、服薬に際しての状態などを家族・医師・看護職に報告しながら連携を取っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	随時家族と相談しながら、その都度生まれてくる疑問や不安などに対して話し合いを通して確認している。終末期や延命治療など方針を聞きながら職員間で共有している。	/	/	/	事業所では、「重度化した場合における対応に係る指針」「看取りに関する指針」を定め、積極的に事業所での看取りを支援している。職員は利用者や家族から意向を聞き、かかりつけ医と連携を図りながら方針を決めて支援している。事業所には看護師の資格を持つ職員も多く、緊急時にも利用者や家族には安心感がある。現在のコロナ禍で、家族との面会が十分にできない中で看取り支援を行い、管理者は「心残りとなった」と話されていた。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	カンファレンスやかかりつけ医の往診等、家族や本人と共に今後について話し合う方針を決めている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	カンファレンスを実施し、職員にできる事の確認や連絡手段・対応方法について共有している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	その都度話し合いを行いながら理解して頂いている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	重度や終末期の段階において、変化や何かあった場合は家族やかかりつけ医とこまめに連絡を取っている。その際、今後の考えられる経過やどう対応したらよいか等相談している。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族等の面会の際には声掛けやコミュニケーションを通して気持ちを聞けるよう心掛けている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	研修会に参加。内容をミーティングで共有している。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染対策のマニュアルを作成しているが、日頃からの訓練が不足している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	テレビ・新聞・保健所・医療機関からの情報を取り、職員間で共有している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	テレビ・新聞・保健所・医療機関からの情報を取り、職員間で共有している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	玄関に消毒液を設置し、来訪者への促しもしている。又、職員は日頃から手洗いうがいの意識付けができています。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時や電話など、本人の様子や状態を報告しており、変化があった事や継続できていること等お伝えし、身近に感じられるように取り組み、家族とのコミュニケーションを大切にしている。	/	/	/	年2回家族会を開催するほか、家族と一緒に花見や敬老会の行事を行っている。家族会では1年間の行事予定の説明ほか、利用者の日常生活の様子をスライドショーで報告するなど、利用者や家族から好評を得ている。毎月請求書の送付時には事業所便りを沿えて送付している。遠方の家族には手紙や暑中見舞いを送付し、返事をもらうことも多い。職員は頻繁に家族連絡を取り、事業所での出来事や利用者の様子を伝えることにより、家族との信頼関係づくりと事業所への理解が得られるように努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	明るい声掛けを全員で心掛けている。面会時は居室やホールでゆっくり過ごして頂けるよう声掛けしている。お茶をお出しし、利用者本人と共にくつろいで頂けるよう努めている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	日頃の外出や通院等を協力頂き、機会を作っている。お花見会・夏祭りなど季節の行事はお便り等でご案内し参加できるようにしている。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月家族に向けてお手紙を送付し、本人の様子をお伝えしたり、しおり便りを同封し、ホームでの活動状況などをお伝えしている。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	面会等の時に得た、ご家族の思いを職員で共有し、そのことに関する情報や経過をご家族に報告している。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	利用者本人の状況や様子を随時伝えつつ、家族が不安や心配をしすぎないようフォローしている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会議や毎月のお便りに、職員の異動・退職は報告している。又、しおり便りを同封し、一か月の行事や様子等、写真入りで報告している。設備改修・機器の導入については不十分である。	◎	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	運営推進会議・行事等への参加のお誘いはしている。年に2回、家族会を開催しているが、今年度はできていない。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	◎	体調変化やそれが予測される状態の時などは、随時、連絡をとっている。できるだけ事前に相談しながら伝えている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	面会や来訪時に声掛けを行いコミュニケーションをとるように心がけている。又、管理者は家族から気軽に相談等を受けれるように、電話やメールでの対応も行っている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	入居契約の際、理解、納得して頂きながら進めている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去に際しては、利用者家族と話し合いケースごとに対応できるようにしている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	料金の変更がある場合は、予め家族への手紙や電話連絡、運営推進会議等で報告、説明し同意を得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	近隣地域の人に対して、しおり便りを配布したり行事の際のお誘いに出向いたりしている。	/	◎	/	地域の清掃や和霊大祭などの行事には、積極的に利用者と一緒に出かけ、交流が盛んに行われ、利用者も楽しみにしている。法人として自治会に加入し、地区の行事案内など回覧板が回ってくるほか、毎月作成する事業所便りを利用者と一緒に近隣住民に持って行くなど、地域とのつながりを大切にしている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域行事がある時は、積極的に参加している。その中で挨拶やコミュニケーションを大切にしている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	民生委員の方や近所の商店の方と、少しずつ顔見知りとなり声をかけて下さる。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	庭を開放し地域の人が絵を書きにきたり、保育園児が散歩に来ている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	散歩時に声をかけて下さったり、しおり便りを配布している。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	ボランティア散髪、カラオケ、サロン等地域の協力を頂き、ホーム内での行事等に参加して頂いている。他施設との交流もある。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地域行事には可能な限り出かけていき交流している。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域の小学校や保育園、商店、異動販売などの協力もありホームに訪問して頂いている。しおり便りの配布や地域行事に出向いたり日常の中で行っている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	家族や地域の人々の参加はあるが、利用者が参加する機会はない。	/	○	○	運営推進会議は、家族や地域住民、学校関係者、他のグループホーム、市担当者などの参加を得て開催している。次回の会議からは、新たに地元の消防団員の参加を予定している。会議では、サービスの実施状況や外部評価のサービス評価結果などを報告し、各参加者からは多くの意見や質問が出されるほか、ねぎらいの言葉も掛けられるなど、有意義な会議となっている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	外部評価の結果がまとまり次第、運営推進会議で報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	△	事業所からの一方的な報告だけではなく、参加者に意見を頂けるように働きかけているが提案などは少ない。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	年間の予定を立てており、事前に日程をお知らせしている。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	×	議事録は市へ提出している。要望があれば、お答えできるように備えている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	ホーム玄関に事業所全体の理念を掲示している。「共に生きる」を心掛け、日常的に取り組んでいる。又、各ユニットで目標を決め年に一度振り返り見直しを行っている。				
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	理念は玄関に掲示しており、広報(しおり便り)のタイトルが理念になっている。見学者には、その際、伝えている。	○	○		
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	研修に参加できるよう周知や声掛けを行っている。代表者は、現場を見たり面接を行い、職員とのコミュニケーションを図りながら把握している。				代表者は職員一人ひとりをよく観察しており、職員の家庭環境に配慮してシフトを組んでいる。職員が働きやすい職場となるよう、リフレッシュ休暇を取り入れたり、親睦会などを開催する工夫もしている。職員は代表者と話しやすく、信頼関係も厚い。訪問調査の当日にも、代表者は若い職員の試験に望んだ会話を耳を傾け、アドバイスや励ましの言葉を送っていた。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	計画的には行っていないが、実務を通してその都度行っている。又、ミーティングやユニット会でも話し合いの中に取り組んでいる。				
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	職員個々に向けて取り組んでいる。シフトや業務内容に負担がないが管理者と話し合いが行われている。				
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	研修や交流会などへの参加を心掛けている。管理者から職員に案内したり直接声をかけている。				
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	面接や日頃の業務の中で、コミュニケーションをとりながら話を聞いている。	◎	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	研修で学んだり職員間で話し合い取り組んでいる。利用者の生活の中でケアを振り返り適切なケアを検討している。				職員全員が虐待等を理解し、不適切な行為を発見した場合の対応手順を把握している。管理者等は、「職員同士が何でも言い合える環境にしたい」と考えている。職員が思ったことは、職員間で報告できている。また、身体拘束等の適正化対策委員会でも話し合い、職員間で情報を共有している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	ミーティング、ユニット会で日頃から話し合う場で気づきを出し合い検討している。				
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないよう注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	言葉や関わり、態度が不適切であったり虐待に繋がっていないか意識している。身体の状態に変化がある時は職員間で報告し話し合っている。			○	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の日々の様子に気をつけ、本人に声をかけたり話をお聞いたりしている。				
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	職員間で話し合いながら、事例に合わせて検討している。				
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	身体拘束等の適正化対策委員会を立ち上げ、委員会を中心に点検し話し合い各ユニットで共有している。				
		c	家族等から拘束や施設への要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族等から拘束や施設への要望はないが、必要時には身体拘束について家族等と話し合いながら理解して頂くと思う。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	研修に参加し、理解できるように努めている。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	現在、そのようなケースはない。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	支援が必要である場合は、専門機関等の関係各所に繋げるよう備えている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	△	マニュアルはあるが、周知徹底が不十分である。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	看護職からの指導等が主である。定期的ではなく、実践に向けては不安があるのが現状である。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	毎月のユニット会にて、事故、ヒヤリハットを報告し、再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者個々に応じて、リスクや環境調整等を考慮し取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	マニュアルがあるが、周知徹底が不十分である。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情や不満に繋がるようなケースもあるので、何かあれば利用者家族へ、随時報告、相談を行っている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情とまでは至らなくても、随時連絡、相談を受けながら取り組んでいる。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	二か月に一度、介護相談員が来所。利用者の意見や要望、苦情を聞く機会がある。又、常日頃管理者、職員は利用者の意見や要望は聞くように努めている。			○	利用者には、各担当職員と居室等でゆっくり話しができる時間を設け、意見等を聞いている。2か月に1回介護相談員の訪問があり、苦情などを含め意見や要望を聞き取っており、内容は職員に伝達してもらっている。家族には、面会時や運営推進会議、家族会などで意見や要望を聞き取る機会をつくっている。また、管理者は職員から申し送りをはじめ、現場で意見や提案などを日常的に聞いており、ミーティングやユニット会で話し合い、利用者のより良いサービス提供に反映されるよう検討している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議や家族会、面会時の際、コミュニケーションを通して話し合っている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	介護相談員が定期的に来所されている。苦情相談員についてホーム内に掲示している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者は巡回など随時行っており、食事を共にしたりいつでも意見や要望、相談が出来る機会を作っている。又、必要に応じて個別に対応したりミーティング等全体で話し合っている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	朝、夕の申し送りに参加し常に現場の状況の把握に努めている。職員一人ひとりの意見や提案等が聞けるよう、それぞれに声掛けを行っており、ミーティング、ユニット会で意見交換を行っている。			○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	外部評価時に説明を行い、職員全員で一人ひとり自己評価に取り組んでいる。				運営推進会議の中で、参加者や家族には外部評価のサービス評価結果や自己評価等を作成した内容を報告するほか、計画書を作成し事業所の取り組みなどの確認をしてもらっている。運営推進会議に参加していない家族に会議録や評価表、計画書を送付するなど、会議やサービス評価の取組みに理解を得られる取組みを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	評価の内容や結果、課題等は職員で確認、共有している。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	目標達成計画を作成し職員全員に周知し、職員間で話し合い確認をしている。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	家族、運営推進会議の参加者に書式を用いて報告し計画書を確認してもらっている。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	計画書の成果の振り返りや確認が不十分である。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	マニュアルはあるが、周知徹底が不十分である。				年3回、様々な災害や時間帯を想定して避難訓練を実施している。約2年前の豪雨災害で怖い思いをしたこともあり、防災、リスク委員会でも定期的に設備等を確認している。消防署との連携は取れているが、近隣住民等との連携体制は取れていないことを、事業所としても課題として認識していることから、少しずつからでも連携が図れる取組みを期待したい。また、他の介護サービス事業所等との交流もあることから、事業所間で連携や協力方法を検討し合うなど、協力体制を構築することを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年3回(内1回は消防立ち合い)夜間想定やさまざまな状況を想定しての避難訓練を行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	防災、リスク委員会を設置し、定期的に点検している。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	年1回は消防署立ち合いの元、訓練を実施している。地域の消防署とは連携を取れているが、近隣住民や他事業所との連携や支援体制は図れていない。	○	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	災害時の情報伝達訓練や原子力災害の福祉施設受け入れ等を行っている。				
		a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	しおり便りの発行、行事等を通して情報発信をしたり、足を運んでもらう機会を作っているが、積極的な啓発活動には及んでいない。				
51	地域のケア拠点としての機能	b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	毎月見学、相談日を設けているが、施設見学はいつでも受け付けており、電話での問い合わせや相談にも対応できるよう努めている。		x	○	事業所では、地域住民の事業所見学や電話相談など対応している。地区の回覧板でも事業所便りやチラシを回していることから、地域住民への事業所の知名度は高い。町内の清掃やイベントに積極的に参加し、保育園や小学校との交流も盛んにあり、地域に受け入れられている。また、認知症カフェ(笑みちゃんカフェ)も定期的に開催し、地域のケア拠点としての機能も発揮している。
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	◎	毎月見学、相談日を設けているが、施設見学はいつでも受け付けており、電話での問い合わせや相談にも対応できるよう努めている。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	要望や必要性がある場合は積極的に受け入れを行っている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	町内清掃の参加や地域イベントには積極的に参加している。他施設との交流を図ったり、協力医や専門機関との連携等、関係構築に努めている。			○	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 2 年 10 月 14 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 13名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	9名	

※事業所記入

事業所番号	3890300126
事業所名 (ユニット名)	グループホームしおり 風
記入者(管理者) 氏名	網干 直美
自己評価作成日	令和 2 年 9 月 23 日

<p>【事業所理念】 ・共に生きる</p> <p>【ユニット目標】 ・つなぐ手・つなぐ心</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>(取り組み) ①年に3回の避難訓練を実施。消防署との連携はとれているが、災害時や緊急時等、地域の協力を持てる体制作りには及んでいない為、運営推進会議や広報誌を活用し、避難訓練、救命救急講習等の実施や、災害時の事業所のあり方等の情報を発信した。 (結果) ①地域の災害時の事業所の在り方や避難場所としての役割を少しずつ周知していただいているが、合同訓練については時間的な問題で地域の方の参加は難しい。 (取り組み) ②運営推進会議の参加について固定メンバーだけではなく、利用者の参加や幅広い参加者に協力を依頼し利用者、地域住民の方へ運営推進会議への参加の誘いを働きかけた。又、発言しやすい会議の雰囲気作りや環境、会議の組み立て方や内容を工夫した。 (結果) ②新たなメンバーの参加もあり、多くの視点や意見、情報交換が出来るようになってきた。1年間の行事、日常の様子のスライドショーは好評で今後も継続していきたい。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>事業所は宇和島市街地が見下ろせる高台にあり、真向かいには宇和島城を眺めることができる。事業所の敷地は広く、自家菜園もあり利用者と一緒に季節の野菜を収穫している。現在はコロナ禍のため、利用者の外出は自粛しており、利用者には何か楽しみは持てないか職員間でそうめん流しを企画し、手先の器用な男性利用者が竹を割って節を削るなど、立派なそうめん流し台を作る活躍をするなど、利用者と一緒に楽しんでいる。また、風船バレーのネットも手作りしたり、応援利用者にはポンポンを作ったりするなど、本格的に利用者と一緒にゲームを楽しむことができています。職員は真剣に利用者のことを考え、日常生活やレクリエーションに至るまで、工夫やアイデアを出したことをすぐ実現し、利用者の楽しみのある生活にもつなげている。また、事業所では利用者一人ひとりの自己決定を大切にし、職員は待つ姿勢で支援できるよう取り組んでおり、利用者のできることを増やしたり継続したりできるように努めている。地域にも積極的に関わっており、保育園や小学校との交流も盛んに行われているほか、地域に対して認知症カフェ(笑みちゃんカフェ)を実施し、地域のケア拠点としての機能も発揮している。運営推進会議のメンバーから事業所の評価は高く、家族からは何より利用者が伸び伸び自分らしく穏やかに過ごしていると感謝の声も多く聞かれる。</p>
--	--	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日頃のコミュニケーションや会話を通して、思いや希望を聞くように努めている。又、得た情報は職員間で共有している。	◎		◎	日常会話の中で、職員は利用者一人ひとりと丁寧に会話をしながら、思いや希望を聞き取っている。訪問調査日にも、利用者が中庭に目をやり、「コスモスがきれい。あそこで写真撮りたいけど出ていい」という利用者に職員は寄り添い、楽しそうに写真を確認する様子を見ることができた。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人の生活歴やこれ迄の歴史にも目を向け、小さな表情の変化も見落とさないよう努めている。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	△	面会に来られた際に、コミュニケーションを図り、本人の思いについて伝える事はあっても話し合い迄には至っていない(新型コロナウイルス感染予防対策により面会禁止が続いた為ご家族と話し合う機会がもてなかった)				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	入所時、フェースシートを作成し職員間で共有し確認していき、センター方式、24hシート等に記録するように努めている。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	申し送り等で情報を共有し、個人の思い込みや決めつけにならないよう、職員間で確認しあっている。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入所時のアセスメントで家族や関係者から情報収集を行い、入所後は、面会時に情報交換をするように努めている。			○	職員はセンター方式のアセスメントシートを活用して、家族や関係者から情報収集を行い、記録し共有している。また、「私が終わること・わからないことシート」を活用して具体的に抽出することで、職員は利用者の性格や好み、言葉づかいなどを把握することができている。利用者の得意な習字や料理、好きな植木など、これまでの生活歴なども職員は把握している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	出来ない決めつけず「これがこうなら、あれはできるのでは？」と可能性を見つけ取り組んでおり記録し情報共有している。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	ユニット会、モニタリング、アセスメントシート、24hシート等を活用。記録に残し共有している。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	ユニット会、モニタリング、アセスメントシート、24hシート等を活用記録に残し共有している。又、身体面では看護師やかかりつけ医と連携を取っている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	24hシートに記録を残し、変化があれば申し送り等で情報共有している。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	24hシートに記録を残し、変化があれば申し送り等で情報共有している。			○	職員は、「24時間支援記録」を細かく記録することで、利用者一人ひとりの情報を共有している。ユニット会では職員間で話し合いたい項目を明確にし、利用者本位の支援になるよう検討している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	ユニット会、モニタリング等を通して支援方法を検討している。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	ユニット会、モニタリングを行い、日々の支援からでてくる課題について明らかにするよう努めている。				

愛媛県グループホームしおり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人からしたい事を聞き取ったり、日常生活の様子等から汲みとれる思いを職員間で話しあっている。	/	/	/	職員は、利用者一人ひとりの要望や意見を聞き、「やりがいと自信を持ちたい」など、利用者の発した思いをそのまま記録に残している。また、職員は家族からも要望を聞き取り、職員の気づきなどを反映して、介護計画を作成している。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人の意向を踏まえ、家族にも確認しただけ取り入れている。ユニット会で話しあい、職員からもアイデアが出されている。	◎	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	本人の希望を聞いたり表情等から読み取るようにしている。選択を促している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	△	家族協力のもと、誘因や美容院に行く事はできているが、地域を巻きこむには至っていない。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	ケアプランは毎日見えるよう、個別ファイルに貼付しており、プランの内容の把握は出来ている。	/	/	/	ファイルの内側に介護計画書を貼付し、サービス内容をどの職員が見ても分かりやすいように工夫している。「24時間支援記録」には、利用者の起床時から日中の様子、就寝までを記録され、より良いケアの実践につなげている。利用者の感情や活動の様子、しぐさなども、分かりやすく記録に残されている。カンファレンスなどでは職員から意見が出されているが、記録に残せていないため、会議録など記録に残すことを期待したい。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	24hシートは毎日チェックしている。毎月行っているユニット会にて結果、経過について確認している。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	24hシートに1日の様子や特変時の記録はできているが、支援した具体的な内容が乏しいと感じている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	△	24hシート、申し送りノート等に記録し共有しているが、工夫、アイデアは出ていない。	/	/	△	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	毎月のモニタリングで3ヶ月毎の評価で見直しは出来ている。	/	/	/	毎月、サービスの実施状況等のモニタリングを実施し、モニタリング表には1か月目、2か月目、3か月目と作成して、3か月ごとに評価をして、必要に応じて介護計画の見直しをしている。また、利用者の変化が生じた場合には、その都度職員間で話し合って見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	日常のケアの中で確認し、ユニット会で話し合いが出来ている。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	体調等に大きな変化があれば、プランの期間内であっても、見直し、作成を行っている。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	定期的なユニット会を開催。必要に応じて緊急カンファレンスを行っている。	/	/	/	毎月実施するユニット会で話し合い、検討した項目や内容、結論、残された課題などを議事録として残している。参加できなかった職員は議事録を確認し、サインをして共有できるようにしている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	発言は否定せず、前向きに検討するようにしている。できるだけ皆に意見を聞くように心がけている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	年度始めに1年間の開催日時を決めている。緊急カンファレンスは出勤者の負担にならない日時で調整している。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	会議録を作成しており、参加できなかった職員には口頭で伝えている。又、会議録に目を通したら押印するようになっていた。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	日誌、連絡ノート、申し送りで共有している。	/	/	/	申し送りははじめ、日誌や連絡ノートを活用し、職員間で情報を共有している。特に重要な事柄はマーカーを引くなど、他の職員が見ても分かりやすいように工夫されている。職員の記録の確認後には、サインを徹底している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	日誌、連絡ノート、申し送りで共有している。	◎	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にしたい支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	コミュニケーションを取りながら、思いを把握するように努めているが、毎日が同じパターンになりがちで積極的には行っていない。	/	/	/	事業所では飲み物のメニュー表を作成し、職員はその都度利用者に飲みたい物を提供できるようにしている。日常生活の中で、常に職員は利用者が自己決定できるよう、待つ姿勢を心がけながら支援している。全ての職員の言葉かけなどは丁寧で優しく、利用者の意欲を引き出せるような接し方ができている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	飲み物や洋服など希望の物を聞いたり選択して頂く機会を作っている。入浴の時間等、希望の時間やタイミングを本人と相談しながら支援を行っている。	/	/	◎	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかるかに合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	自己決定が難しい方に対しての働きかけが難しい。答えやすい質問、その方に通じやすい表現を心掛け、筆談やジェスチャーを交えて伝えている。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にしたい支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	一人ひとりのペース、生活習慣を大切に、本人の気持ちを確かめながらケアを進めるように努めている。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉かけや雰囲気づくりをしている。	○	利用者に接する時は、明るく笑顔で気持ちの良い態度を心がけている。コミュニケーションや声掛けを意識し傾聴。その方にあった楽しみを見い出せるよう提案している。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	日頃の関わりの中で、表現や言動をよく観察し状態の把握に努めている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にしたい言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	研修や報告会の参加で学んでいる。又、指導して下さる先輩もおり、日頃から十分配慮し意識して行動するように努めている。	/	◎	◎	○ 定期的にプライバシーの尊厳等の勉強会を開催し、職員の意識向上に努めている。職員は利用者の「尊厳」を大切に、支援していることを窺うことができた。トイレや着替えなど、利用者のプライバシーを要する場面では、職員は小声で声かけをするなど、利用者に配慮した対応ができるよう心がけている。利用者が居室に居ても居なくても、職員はノックや声かけを基本として支援している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉かけや対応を行っている。	○	特に大きなプライバシーに係る部分、トイレや入浴、行為について、細心の注意を払っているが、相手によってはストレートな表現でないと伝わりにくい事がありできていない事もある。	/	/	/	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	事前に声掛けをし、ケアにあたっている。カーテンや身体を隠す為にタオルを使用している。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入室する時は、ノックをしたり外から声をかけてから入室している。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	◎	個人情報、保護について理解している。職場内や職員のやり取り等個人情報は第三者には漏らさないとしている。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	日々の生活の中で、得意分野を積極的に行ってもらい、職員が助けてもらったり教わる事も多い。お互いに助け合い共感し支え合っている。	/	/	/	○ 共用空間に置かれているイスを除けて通りやすいようにしたり、下膳を手伝ったりするなど、利用者同士が支え合う場面が多く見られる。日常生活の中で、利用者同士の意見の食い違いも見られることもあるが、管理者は利用者の喜怒哀楽の表出も大切なことと考えている。利用者同士のトラブルが起こった場合には、職員が間に入り、きちんとフォローをしている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	理念の「共に生きる」を元に大切さの理解は出来ている。助けたり助けられたり、利用者の笑顔を見る事で支え合っていく事の大切さと重要性を感じている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらい場面をつくる等)。	○	利用者同士の関係性の把握に努めている。全体の雰囲気を見ながら座席の変更をしている。下膳できない利用者さんの食器を片付けて下さったり、移動時、他者の車椅子を押してさし上げたり、歩行器を持ってきて下さる場面も見られる。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	それぞれの利用者別に別の場所で話を聞くなどして他者への影響がないように支援している。トラブルが起きそうな場面では、事前に職員が間に入り回避している。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	本人、ご家族からお話をお聞きしているが、全てではない。キーパーソン、近親者については把握できている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人、ご家族からお話をお聞きしているが、全てではない。これ迄の生活歴や家族から得た情報は共有している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	△	馴染みの美容院、理髪店、通院等これ迄の繋がりを継続している人もいるが、重度の方は難しくなっており、人により差がある。年に2回、本人から年賀状や暑中見舞いが出せるように支援している。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	昼間は鍵をかけず、気軽に来れるようにしている。来所時は、明るい挨拶を心掛け、居室やホールでゆっくり過ごして頂けるよう環境を整えている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	△	気候は考慮して外出、散歩は行っているが、一人ひとりの希望にそって取り組むのは難しく、時間帯、行き先等が職員都合になる事もある。	○	○	○	日頃から、家族の協力も得ながら、ドライブなど外出できるように支援している。現在はコロナ禍のため外出を控えているが、日常的に広い庭先に出て散歩したり、外気浴をしたりしている。訪問調査日にも、重度な利用者を含む数名の利用者に職員が「帽子はどれにする」などと声をかけ、利用者自身で選んだもらった帽子を被り、笑顔で外に出ていく利用者の様子を見ることができた。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	×	ご家族、ホーム職員で外出支援を行っているが、地域の人やボランティアの協力は無い。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	体調や気候等を考慮しながら、離床する時間をもてるように支援している。	/	/	/	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	△	ご家族に協力してもらい自宅やお店に外出や外泊をして頂ける時はあるが個人差はある。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	実践者研修で学んだ事を日々のケアに繋げるようにしている。利用者の状態の小さな変化も見逃さないよう、その日起きた事を職員間で話しあい解決するよう努めている。	/	/	/	日常生活の中で、職員は利用者を見守り、待つ姿勢を重視した支援をしている。利用者のできること、できそうなことは、可能な限り自分でしてもらうよう職員は声かけしている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	日常生活の中で見守りと声掛けを行いながら利用者の動きを抑制しないよう心掛けており、出来る限りトイレでの排泄、福祉用具の使用、散歩や体操、食事前の口腔体操にも取り組んでおり、機能の維持に取り組んでいる。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行動できるようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	見守りと声掛けを行いながら、できるだけ本人にして頂けるように見守る姿勢と関わりをもっている。	◎	/	◎	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	本人とのコミュニケーション、家族との会話を通して、希望や楽しみを把握している。日々の生活から得意分野も把握し、一人ひとりの生活を見守っている。	/	/	/	女性利用者は掃除をしたり、洗濯物を畳んだりするなど、積極的に役割を持ってしている。調理好きな利用者は、男性職員が調理を担当する時には特に気づかい、積極的に手伝う姿が見られる。男性利用者ならではの、そうめん流し台づくりに活躍するなどの出番もあるなど、職員は利用者一人ひとりの状態等にも合わせながら、得意分野で出番や役割が発揮できるよう支援している。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	一人ひとりのその日の状態に合わせて、笑顔を引き出せるよう得意な事を活かせる場で積極的に声掛けしているができていない人もいる。	◎	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	地域行事の参加は積極的にやっているが、同じ利用者には偏りがちである。	/	/	/	

愛媛県グループホームしおり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	好みの洋服選びやお化粧、スカーフをしたりとその人なりのお洒落を把握している。又、散髪や毛染めなどホームで出来ることを本人と相談して行っている。				利用者の服装や髪型などに乱れがある場合は、職員は自尊心を傷つけないようさり気なくカバーしている。自分に合った整容や化粧をして、楽しむ利用者もいる。事業所には散髪ボランティアの来訪もあり、散髪をしている利用者もいる。重度の有無にかかわらず利用者の希望を聞き、無理強いすることなく自己決定を尊重した支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	個々に洋服を選んでもらったり、ご自身で整容されている方もおられる。又、月に一度来て頂いているボランティア散髪さんには、好みの髪形や長さなど自身で伝えるなどしており、希望通りにして頂いている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	最初から決めつけず、問かけの工夫に二択にしたりゆくり考えて頂けるよう、せかさないうえを付けている。又、表情の変化を観察し気持ちに寄り添うように心がけている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	好みやこだわりを尊重して、行事や外出はその場面に応じてお洒落を楽しんでいる。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にしたりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	自尊心を傷つけないよう、小声での誘導を心掛け、周囲に気づかれないよう対処できている。	◎	◎	◎	
		f	整容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	家族の協力を得ながら出来ている。又、希望があれば送迎し馴染みの店にも行っている。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	重度になっても場面や状況に合わせて、髪型・服装の配慮をしている。			○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	全員理解できている。個々に応じて調理方法や形態を変え、美味しく食べられるように支援している。				代表者が管理栄養士の資格を持っており、利用者の状況に合わせて栄養面を考え、旬の食材や利用者の好みを取り入れた献立を作成している。台拭きや調理の手伝いなど、利用者のできることを行っている。鮮魚の移動販売車が売りに来た時には、利用者も一緒に品定めをしたり、事業所内の菜園で採れた野菜や家族からの差し入れの食材を使用したりするなど、代表者と職員と一緒に話し合い調理方法を工夫しながら、旬の食材を使ったメニューを利用者に提供している。訪問調査日には、旬の食材を取り入れたさつま汁やオクラの和え物、おやつにふかしまんじゅうが出されて、おいしく頂くことができた。コロナ禍で食事風景は見学することはできなかったが、利用者は自分に合った食器を使用し、職員と一緒に食卓を囲み、楽しく食事をすることができている。重度であつてもりビングに出て職員が気配り、声かけしながら食事介助をしている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにしている。	○	献立は基本栄養士が立てているが、行事や誕生会など利用者の希望を聞き変更することもある。出来ることは一緒にしているが、時間に余裕がないときもある。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	手伝って頂く事で、自信・達成感に繋がっているが、重度によりできない方もいる。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	苦手なもの、アレルギー等の情報収集はしており、目につきやすい所に(冷蔵庫)貼っている。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔ながらの味を取り入れている。	○	アレルギーのある方は、食材やメニューを変更している。又、地域の料理・旬の野菜や地元の魚を取り入れ、季節や行事によってメニューを工夫している。			◎	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いどりや器の工夫等)	○	彩りを考えた盛り付けになるよう努めている。又、ミキサー食でも何かわかるよう説明をし、食を楽しんで頂けるよう心掛けている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等使いやすいもの、使いやすいものを使用している。	○	軽い器、返しのついた器、見えやすい食器の利用者に応じて対応している。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	利用者と一緒に食事をし見守っている。迷う場面や進まない時は、手前に置き換え声掛けをしたり、食べこぼしにはティッシュを差し出すなどさりげなくサポートを心掛けている。			◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音や匂い、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	重度な状態にあつても、調理の音や匂いを感じてもらえるよう、早めにリビングに出てもらい、雰囲気作りを心掛けている。	◎		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	病気に合わせた除去食・主食の減量を行っている。水分チェック表の活用等、それぞれが把握して対応している。				
		k	食事量が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	食事量は毎食記録している。水分補給は時間を決めてこまめに行っており、希望時にも提供できるよう常備している。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	栄養士が立てた献立に沿って調理しているが、必要に応じて出勤者で相談・工夫が出来ている。			○	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	器具は、ハイターで定期的に消毒している。又、食材の賞味期限には十分注意し、近くなったものから使用している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	歯科医を招いての講習会も行っており、研修やミーティングで学び、全員理解できている。	/	/	/	2週間に1回歯科医の往診(口腔ケア)があり、利用者の口腔内の状況確認を記録し、把握できるよう努めている。利用者一人ひとりに合った口腔ケアを行い、必要に応じて職員は利用者の口腔内の状態を確認している。事業所では口腔体操に力を入れており、食事中にムセ込みのあった利用者が改善された事例もあり、職員は口腔体操の必要性を実感している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	訪問歯科の往診(口腔ケア)を受けている。利用者に関しては、日誌・個人ファイルに記録しており、把握している。その他でも、口腔の事で不具合がある等早期発見に努めている。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科の医師から指導して頂いており、毎食後、ケアを行っている。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	利用者個々に応じて、管理や洗浄等を支援している。自分でできない方は、職員と一緒にやっている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	利用者個々に応じて、利用者本人にできる範囲で行ってもらい、必要に応じて、口腔ケアの介助を行っている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医を受診するなどの対応を行っている。	◎	異常等の早期発見に努め、家族に相談しながら適切に受診に繋げている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	△	研修で学んだり(メーカーによる勉強会)ユニット会時の意見交換・理解に努めている。オムツの使用に関しては必要最低限の使用を心掛けている。	/	/	/	職員は、利用者がトイレで排泄できることを基本として支援している。利用者の状態に合わせて、時間等でトイレ誘導をしている。毎月のユニット会では、利用者に合った適切な排泄用具が使用できるよう、検討している。おむつメーカーの研修でパッドの当て方などを職員が勉強したことを実践し、尿漏れが改善された事例もある。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	理解している	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	健康チェック表、24Hシートの活用、申し送り等で個々の把握に努めているが、自立している方は難しい。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	ユニット会等で話し合い、必要性を検討している。個々に応じた形状容量等で使い分けしている。出来るだけトイレでの排泄ができるよう支援している。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄状況を確認しながら、食事・水分・運動・薬の副作用等、影響している点はないか考えながら支援している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	一人一人の排泄パターンを把握し、兆候が見られたら声掛け、誘導を行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	吸収量・時間帯等を考慮して、オムツの種類を検討し、提案をしている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	本人の希望や使用目的に応じた使い分けができています。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	乳製品の提供、こまめな水分補給・運動の促し等を行っているが、薬に頼っている部分がある。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	利用者個々に応じて、生活の習慣やリズム、希望等を考慮し支援しているが、職員側の都合になってしまうことがある。	◎	/	○	事業所では入浴日や曜日の設定はなく、毎日入浴をしている利用者もいる。利用者の希望を尊重して、職員は気持ちよく入浴できるよう支援している。入浴が苦手の利用者には、時間帯を変えて声かけをしたり、スムーズに入浴してもらった時の情報などを共有したりしている。自分用のお気に入りのシャンプーやリンスを用意して使用している利用者も数名いる。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	◎	一人ずつ入浴できている。支援の必要の有無や状況に応じ、介入しないように支援している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	本人ができることはして頂いている。サポートが必要な所はさりげない声掛けをしながら支援している。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせずに気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	体調や本人の気持ちを尊重し、時間を変えて再度声掛けしたり、拒まれた時の状況やスムーズに入浴できた時の状況を情報共有し、声掛け等の工夫を行っている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	入浴前のバイタルチェックを行い、その時の体調や状態を見て入浴を決めている。入浴後は、水分補給し、様子を見ている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	◎	夜勤帯の記録や申し送り等で共有し、日々のケアから睡眠パターンを把握している。	/	/	/	職員は利用者の日中の活動量を増やしたり、特に日中に太陽の日差しを浴びることを大切にしたりしながら、利用者が安眠できるように支援している。必要に応じて、職員は医師と相談しながら内服薬を処方してもらうこともあるが、眠剤ではなく利用者の一日のリズムを整える薬剤を飲むことにより効果を得ることも多い。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	昼夜逆転しないよう、日中の活動を維持できるよう努めている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	日中の活動や過ごし方と並行して、医師との連携を取りながら必要に応じて内服薬などを検討している。	/	/	/	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	いつでも居室で休むことができる。その日の体調や様子、前夜の睡眠具合も考慮し臨機応変に対応している。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	携帯電話を自由に使っている方もおられる。希望に合わせるよう努めているが、電話は時間帯や内容によりできない時もある。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	要望があれば電話の取次ぎはしている。一人一人のできる範囲で年2回(年賀状・暑中見舞い等)季節のはがきを出せるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	ユニットごとに電話が設置されており、取り次いでいる。要望があればご家族に先に確認したうえでかけている	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	△	郵便物などは本人に渡し代読したり、一緒に確認している。返事を書く場合は必要に応じて対応している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	△	電話をかける場合は、先に職員が経緯や内容を説明してから取り次いでいる。事前に協力を依頼している。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大きさを理解している。	○	使用する機会は少ないが、お金を持っていることの安心感等、利用者個々に応じて理解している。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	△	要望があれば一緒に出掛け、買い物することもありますが日常的ではない。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	△	移動販売の方には理解して頂いている。店への協力は特別申し出ていない。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	お金を持つ事で安心感につながる利用者もおられるが、日常的にそのお金を使う場面が少ない。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	×	入所時に話し合っているが、あまり使う機会を持っていない。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	◎	入所時に話し合い、決めている。現金出納帳に記載し、毎月使用した分のコピーを送り確認している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々々のニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	◎	本人や家族等と相談しながら、そのニーズに応えられるよう柔軟に対応している。	◎	◎	家族の要望により職員は利用者の不足する日用品を買いに行くなど、可能な限りその時々々のニーズに柔軟に対応している。利用者から希望が出され、職員と一緒に家に郵便物を取りに行ったりすることもある。	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	常に開放している。掃除や環境整備をし、ソファや椅子・テーブルなどを置き、明るい雰囲気作りを心掛けている。	◎	◎	◎	事業所の敷地は広く、玄関周辺は緑の芝生や菜園、木々に囲まれている。玄関ホールは吹き抜けで広く、テーブルセットやソファが置かれ、訪問者がゆっくりとくつろぐことのできる空間となっている。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものしか置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	玄関やホールでは、季節の花を飾ったり、メダカを飾ったり季節の行事の装飾品を置いており、くつろげるスペースを確認し、家庭的な環境を整えている。	◎	◎	◎	玄関ホールには生花や観葉植物が置かれ、廊下には利用者が発案した「わたしたちの宇和島」と題した、ちぎり絵が掲示されている。リビングは少し手狭になっていることも、家庭的な雰囲気を感じさせてくれている。リビングからは宇和島城や市内の絶景が見渡せ、利用者は庭先の深緑を眺めながら、静かに落ち着いた生活を送ることができている。また、廊下には空気清浄器が置かれ、掃除も行き届き、清潔で居心地の良い空間づくりがされている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	掃除、環境整備、空調、匂い等、日々気を付けている。トイレを設置している部屋には消臭剤を使用している。					○
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	掲示物等で季節感を感じられるようにしている。又、キッチンカウンターの為、食事前には調理の音や匂いがする。					○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	リビング、廊下などソファを設置し、気の合う利用者同士談笑できるようにしている。又、馴染みの場づくりや独りで過ごせる環境も整っている。					
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないう工夫している。	○	トイレや浴室にはカーテンやのれんをつけており、直接見えないようにしている。					
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのもので活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	馴染みの家具等、使い慣れたものを持って来て頂いている。写真の掲示や家具等の配置は相談しながら決めている。	◎			居室には、使い慣れたものなどを持ち込むことができ、サイドボードやサイドテーブル、スタンドを配置するなど、個性的でおしゃれ好きを窺える部屋も多い。利用者個人を尊重した、居心地の良い空間となっている。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	各居室には表札を設置している。又、トイレや浴室など掲示の工夫をし、わかりやすく見えるよう配慮している。				○	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	利用者個々に応じて十分に検討し、センサーの使用から、不安や混乱、失敗等に繋がる場合は環境調整している。					
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ぼうし、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞や広報などが手にとれる所に置いてあり、危険があると思うものは希望時にお出ししている。					
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	玄関チャイムは設置している。日中は鍵をかけておらず自由に入出入りできる環境を整えている。階段の出入り口には転倒防止の為に付けている。	◎	◎	◎	職員全員が鍵をかけることの弊害を理解しており、事業所内には施錠することなく、利用者は自由に出入りすることができる。玄関にはセンサーを付けており、利用者等の出入りはチャイムで確認することもできる。デッキを通過して事業所へ併設されている別のグループホームへ自由に行き来する利用者もいる。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	家族と意見交換しながらホームでの生活について伝えている。					
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	玄関チャイムを設置している。利用者の自由な行動を妨げず、見守りや他ユニットと協力して声掛けをしている。					

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	情報収集した内容を確認している。24hシート、日誌を活用し、看護記録や通院状況なども把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	24hシートや日誌に記録。申し送りを行っている。看護記録に記録している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	主治医や事業所の看護士などへの相談をよくしながら、利用者個々に応じている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	本人家族に相談しながら医療機関や医師に受診できるよう支援している。		◎		
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	本人や家族の意向や希望をよく聞き、納得できる医療機関との連携を図っている。何かあれば、その都度家族に相談し、決定しながら支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	通院の同行や付き添い、結果報告などその都度行っている。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入所の際は情報提供を行い、本人の状態を伝えている。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	管理者、看護職員が主に病院関係者と連絡を取り合いながら、随時家族とも連携して行っている。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	△	定期的な受診を通して、関係作りをしている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	日頃から事業所の看護職によく相談できている。かかりつけ医への相談も随時行っている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	連絡は24hいつでもとれる体制になっている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	毎日バイタルチェックを行い、変化や異常がないか観察している。何かあればすぐに相談できるように努めている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	処方箋や薬の説明、受診記録等から確認している。又、服薬状況管理表を作成しており、いつでも確認できるようにしている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	個別の薬袋、日付を入れる等工夫している。Wチェックし、名前を呼んで手渡し、飲み込むまで見守る。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	日々の状態や様子を観察しながら、変化や異常があれば看護職やかかりつけ医に報告している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	本人の状態や変化等、服薬に際しての状態などを家族・医師・看護職に報告しながら連携を取っている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	◎	随時家族と相談しながら、その都度生まれてくる疑問や不安などに対して話し合いを通して確認している。終末期や延命治療など方針を聞きながら職員間で共有している。	/	/	/	事業所では、「重度化した場合における対応に係る指針」「看取りに関する指針」を定め、積極的に事業所での看取りを支援している。職員は利用者や家族から意向を聞き、かかりつけ医と連携を図りながら方針を決めて支援している。事業所には看護師の資格を持つ職員も多く、緊急時にも利用者や家族には安心感がある。現在のコロナ禍で、家族との面会が十分にできない中で看取り支援を行い、管理者は「心残りとなった」と話されていた。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	カンファレンスやかかりつけ医の往診等、家族や本人と共に今後について話し合う方針を決めている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	カンファレンスを実施し、職員にできる事の確認や連絡手段・対応方法について共有している。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	その都度話し合いを行いながら理解して頂いている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	重度や終末期の段階において、変化や何かあった場合は家族やかかりつけ医とこまめに連絡を取っている。その際、今後の考えられる経過やどう対応したらよいか等相談している。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族等の面会の際には声掛けやコミュニケーションを通して気持ちを聞けるよう心掛けている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	研修会に参加。内容をミーティングで共有している。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染対策のマニュアルを作成しているが、日頃からの訓練が不足している。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	テレビ・新聞・保健所・医療機関からの情報を取り、職員間で共有している。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	テレビ・新聞・保健所・医療機関からの情報を取り、職員間で共有している。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	玄関に消毒液を設置し、来訪者への促しもしている。又、職員は日頃から手洗いうがいの意識付けができています。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時や電話など、本人の様子や状態を報告しており、変化があった事や継続できていること等お伝えし、身近に感じられるように取り組み、家族とのコミュニケーションを大切にしている。	/	/	/	年2回家族会を開催するほか、家族と一緒に花見や敬老会の行事を行っている。家族会では1年間の行事予定の説明ほか、利用者の日常生活の様子をスライドショーで報告するなど、利用者や家族から好評を得ている。毎月請求書の送付時には事業所便りを沿えて送付している。遠方の家族には手紙や暑中見舞いを送付し、返事をもらうことも多い。職員は頻繁に家族連絡を取り、事業所での出来事や利用者の様子を伝えることにより、家族との信頼関係づくりと事業所への理解が得られるように努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	明るい声掛けを全員で心掛けている。面会時は居室やホールでゆっくり過ごして頂けるよう声掛けしている。お茶をお出しし、利用者本人と共にくつろいで頂けるよう努めている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	日頃の外出や通院等を協力頂き、機会を作っている。お花見会・夏祭りなど季節の行事はお便り等でご案内し参加できるようにしている。	◎	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	毎月家族に向けてお手紙を送付し、本人の様子をお伝えしたり、しおり便りを同封し、ホームでの活動状況などをお伝えしている。	◎	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	面会等の時に得た、ご家族の思いを職員で共有し、そのことに関する情報や経過をご家族に報告している。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	利用者本人の状況や様子を随時伝えつつ、家族が不安や心配をしすぎないようフォローしている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会議や毎月のお便りに、職員の異動・退職は報告している。又、しおり便りを同封し、一か月の行事や様子等、写真入りで報告している。設備改修・機器の導入については不十分である。	◎	/	○	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	△	運営推進会議・行事等への参加のお誘いはしている。年に2回、家族会を開催しているが、今年度はできていない。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとり起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。	◎	体調変化やそれが予測される状態の時などは、随時、連絡をとっている。できるだけ事前に相談しながら伝えている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	◎	面会や来訪時に声掛けを行いコミュニケーションをとるように心がけている。又、管理者は家族から気軽に相談等を受けれるように、電話やメールでの対応も行っている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	◎	入居契約の際、理解、納得して頂きながら進めている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去に際しては、利用者家族と話し合いケースごとに対応できるようにしている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	◎	料金の変更がある場合は、予め家族への手紙や電話連絡、運営推進会議等で報告、説明し同意を得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域：事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	近隣地域の人に対して、しおり便りを配布したり行事の際のお誘いに出向いたりしている。	/	◎	/	地域の清掃や和霊大祭などの行事には、積極的に利用者と一緒に出かけ、交流が盛んに行われ、利用者も楽しみにしている。法人として自治会に加入し、地区の行事案内など回覧板が回ってくるほか、毎月作成する事業所便りを利用者と一緒に近隣住民に持って行くなど、地域とのつながりを大切にしている。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地域行事がある時は、積極的に参加している。その中で挨拶やコミュニケーションを大切にしている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	△	民生委員の方や近所の商店の方と、少しずつ顔見知りとなり声をかけて下さる。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	庭を開放し地域の人が絵を書きにきたり、保育園児が散歩に来ている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	△	散歩時に声をかけて下さったり、しおり便りを配布している。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	ボランティア散髪、カラオケ、サロン等地域の協力を頂き、ホーム内での行事等に参加して頂いている。他施設との交流もある。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	地域行事には可能な限り出かけていき交流している。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域の小学校や保育園、商店、異動販売などの協力もありホームに訪問して頂いている。しおり便りの配布や地域行事に出向いたり日常の中で行っている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	家族や地域の人参加はあるが、利用者が参加する機会はない。	/	○	○	運営推進会議は、家族や地域住民、学校関係者、他のグループホーム、市担当者などの参加を得て開催している。次回の会議からは、新たに地元の消防団員の参加を予定している。会議では、サービスの実施状況や外部評価のサービス評価結果などを報告し、各参加者からは多くの意見や質問が出されるほか、ねぎらいの言葉も掛けられるなど、有意義な会議となっている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	外部評価の結果がまとまり次第、運営推進会議で報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	△	事業所からの一方的な報告だけではなく、参加者に意見を頂けるように働きかけているが提案などは少ない。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	年間の予定を立てており、事前に日程をお知らせしている。	/	◎	/	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	×	議事録は市へ提出している。要望があれば、お答えできるように備えている。	/	/	/	

項目 No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	ホーム玄関に事業所全体の理念を掲示している。「共に生きる」を心掛け、日常的に取り組んでいる。又、各ユニットで目標を決め年に一度振り返り見直しを行っている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	理念は玄関に掲示しており、広報(しおり便り)のタイトルが理念になっている。見学者には、その際、伝えている。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	研修に参加できるように周知や声掛けを行っている。代表者は、現場を見たり面接を行い、職員とのコミュニケーションを図りながら把握している。	/	/	/	代表者は職員一人ひとりをよく観察しており、職員の家庭環境に配慮してシフトを組んでいる。職員が働きやすい職場となるよう、リフレッシュ休暇を取り入れたり、親睦会などを開催する工夫もしている。職員は代表者と話しやすく、信頼関係も厚い。訪問調査の当日にも、代表者は若い職員の試験に望んだ会話を耳を傾け、アドバイスや励ましの言葉を送っていた。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	△	計画的には行っていないが、実務を通してその都度行っている。又、ミーティングやユニット会でも話し合いの中に取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	職員個々に向けて取り組んでいる。シフトや業務内容に負担がないが管理者と話し合いが行われている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	研修や交流会などへの参加を心掛けている。管理者から職員に案内したり直接声をかけている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	面接や日頃の業務の中で、コミュニケーションをとりながら話を聞いている。	◎	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	研修で学んだり職員間で話し合い取り組んでいる。利用者の生活の中でケアを振り返り適切なケアを検討している。	/	/	/	職員全員が虐待等を理解し、不適切な行為を発見した場合の対応手順を把握している。管理者等は、「職員同士が何でも言い合える環境にしたい」と考えている。職員が思ったことは、職員間で報告できている。また、身体拘束等の適正化対策委員会でも話し合い、職員間で情報を共有している。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	ミーティング、ユニット会で日頃から話し合う場で気づきを出し合い検討している。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	言葉や関わり、態度が不適切であったり虐待に繋がっていないか意識している。身体の状態に変化がある時は職員間で報告し話し合っている。	/	/	/	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	職員の日々の様子に気をつけ、本人に声をかけたり話を聞いたりしている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	職員間で話し合いながら、事例に合わせて検討している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	身体拘束等の適正化対策委員会を立ち上げ、委員会を中心に点検し話し合い各ユニットで共有している。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	家族等から拘束や施錠の要望はないが、必要時には身体拘束について家族等と話し合いながら理解して頂くと思う。	/	/	/	

愛媛県グループホームしおり

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	研修に参加し、理解できるように努めている。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	×	現在、そのようなケースはない。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	支援が必要である場合は、専門機関等の関係各所に繋げるよう備えている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	△	マニュアルはあるが、周知徹底が不十分である。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	看護職からの指導等が主である。定期的ではなく、実践に向けては不安があるのが現状である。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	◎	毎月のユニット会にて、事故、ヒヤリハットを報告し、再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	利用者個々に応じて、リスクや環境調整等を考慮し取り組んでいる。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	△	マニュアルがあるが、周知徹底が不十分である。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情や不満に繋がるようなケースもあるので、何かあれば利用者家族へ、随時報告、相談を行っている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情とまでは至らなくても、随時連絡、相談を受けながら取り組んでいる。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	二か月に一度、介護相談員が来所。利用者の意見や要望、苦情を聞く機会がある。又、常日頃管理者、職員は利用者の意見や要望は聞くように努めている。			○	利用者には、各担当職員と居室等でゆったり話ができる時間を設け、意見等を聞いている。2か月に1回介護相談員の訪問があり、苦情などを含め意見や要望を聞き取っており、内容は職員に伝達してもらっている。家族には、面会時や運営推進会議、家族会などで意見や要望を聞き取る機会をつくっている。また、管理者は職員から申し送りをはじめ、現場で意見や提案などを日常的に聞いており、ミーティングやユニット会で話し合い、利用者のより良いサービス提供に反映されるよう検討している。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	運営推進会議や家族会、面会時の際、コミュニケーションを通して話し合っている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	△	介護相談員が定期的に来所されている。苦情相談員についてホーム内に掲示している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	代表者は巡回など随時行っており、食事を共にしたりいつでも意見や要望、相談が出来る機会を作っている。又、必要に応じて個別に対応したりミーティング等全体で話し合っている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	朝、夕の申し送りに参加し常に現場の状況の把握に努めている。職員一人ひとりの意見や提案等が聞けるよう、それぞれに声掛けを行っており、ミーティング、ユニット会で意見交換を行っている。			○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	◎	外部評価時に説明を行い、職員全員で一人ひとり自己評価に取り組んでいる。				運営推進会議の中で、参加者や家族には外部評価のサービス評価結果や自己評価等を作成した内容を報告するほか、計画書を作成し事業所の取り組みなどの確認をしてもらっている。運営推進会議に参加していない家族に会議録や評価表、計画書を送付するなど、会議やサービス評価の取組みに理解を得られる取組みを期待したい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	△	評価の内容や結果、課題等は職員で確認、共有している。				
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	△	目標達成計画を作成し職員全員に周知し、職員間で話し合い確認をしている。				
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	家族、運営推進会議の参加者に書式を用いて報告し計画書を確認してもらっている。	○	○	○	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	△	計画書の成果の振り返りや確認が不十分である。				
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	△	マニュアルはあるが、周知徹底が不十分である。				年3回、様々な災害や時間帯を想定して避難訓練を実施している。約2年前の豪雨災害で怖い思いをしたこともあり、防災、リスク委員会でも定期的に設備等を確認している。消防署との連携は取れているが、近隣住民等との連携体制は取れていないことを、事業所としても課題として認識していることから、少しずつからでも連携が図れる取組みを期待したい。また、他の介護サービス事業所等との交流もあることから、事業所間で連携や協力方法を検討し合うなど、協力体制を構築することを期待したい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年3回(内1回は消防立ち合い)夜間想定やさまざまな状況を想定しての避難訓練を行っている。				
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	防災、リスク委員会を設置し、定期的に点検している。				
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	年1回は消防署立ち合いの元、訓練を実施している。地域の消防署とは連携を取れているが、近隣住民や他事業所との連携や支援体制は図れていない。	○	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	△	災害時の情報伝達訓練や原子力災害の福祉施設受け入れ等を行っている。				
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	しおり便りの発行、行事等を通して情報発信をしたり、足を運んでもらう機会を作っているが、積極的な啓発活動には及んでいない。				事業所では、地域住民の事業所見学や電話相談など対応している。地区の回覧板でも事業所便りやチラシを回していることから、地域住民への事業所の知名度は高い。町内の清掃やイベントに積極的に参加し、保育園や小学校との交流も盛んにあり、地域に受け入れられている。また、認知症カフェ(笑みちゃんカフェ)も定期的に開催し、地域のケア拠点としての機能も発揮している。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	毎月見学、相談日を設けているが、施設見学はいつでも受け付けており、電話での問い合わせや相談にも対応できるよう努めている。		x	○	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	◎	毎月見学、相談日を設けているが、施設見学はいつでも受け付けており、電話での問い合わせや相談にも対応できるよう努めている。				
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	要望や必要性がある場合は積極的に受け入れを行っている。				
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	町内清掃の参加や地域イベントには積極的に参加している。他施設との交流を図ったり、協力医や専門機関との連携等、関係構築に努めている。			○	